

基調講演

演題「歯内療法もがっちりとしっかりと」

東京都中央区開業 小嶋 壽

私の歯内療法臨床に比べると、世間の根管形成は細いというよりも、大変貧弱のように感じられる。その昔、大谷歯内療法研究会の発会間もなく、理事であった大津 晴弘先生は今までのラテラル コンデンセーションから、独自で開発されたオピアン キャリア法による垂直加圧根充法を考案された。これは臨床的に画期的なもので、それまでラテラルでやっていた根充がどの歯でも 30 分のアポイントが必要で、根充だけの内容でアポイントが必要だったものに対して、オピアン キャリア法ではアポイントの残りが 5 分あれば根充の用意をして根充して、その確認まで十分にできたのである。しかも#80 のガッター一本で余りが出る！今までのラテラル根充ではとてつもなく時間がかかり、しかもマスターポイントとアクセサリポイントが一根管で 30 本も 40 本もかかったものである。このように良いことづくめのオピアン キャリア法だが一つ、伝麻針が入るだけの太さまで根管形成で開けなければならない。大津先生は#60~70、私は若かったこともありどの歯のどの根管でも根尖付近まで#80 まで開けていた。しかも大谷先生の教えのとおり薬は一切使わず、大きく開けること、まっすぐの距離を確保することだけを考えて根管形成していた。そのようなことでも当時の臨床ケースを見ると、根尖病変は数十年経っても悪くなってないことが多い。結局、入り口から根尖までの汚染物質と象牙細管表面を削り取っていたのである。